

ようこそチョウの世界へ

～ブラブラ散歩で出会った蝶の写真帳～

町内在住の河内建さん(77歳)が日常の散歩や広島県内の野山で出会った81種類のチョウ(安浦町内:45種)をまとめた写真帳を発行されました。

はじめは、トンボの世界に魅せられて写真を撮影していましたが、2018(平成30)年6月「せら夢公園自然観察園」で開催された「ヒョウモンモドキ観察会」に夫婦で参加されたのがきっかけで、チョウの美しさ、また絶滅危惧種の保護に携わる人々の熱意を感じてチョウの世界に魅せられるようになったそうです。

河内さんは、「妻の帽子に2頭のヒョウモンモドキが仲良く止まったのが忘れられません。チョウとの触れあいを一緒に楽しもうと思っていましたが、その年に妻は旅立ちました。写真帳を見ながら語り合いたいと思っています。この写真帳がきっかけで、身近な自然に目を向けて、いろいろな昆虫や草花と出会っていただければ」と話されていました。

※ヒョウモンモドキ…

環境省のレッドデータブックで「絶滅危惧IA類」 広島県:「絶滅危惧I類」 広島県世羅町と三原市の一部で保護活動が進められ、毎年6月「せら夢公園自然観察園」で見ることができます。



連絡先: 090-4578-3875

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261(年4回発行)



お菓子の王国誕生!!



OPEN 11:00 ~ CLOSE 15:00 (LAST ORDER 14:00)

日帰り利用可能のCAFÉ nami note。床はバームクーヘン柄

2024(令和6)年9月22日(日)にシャトレゼガトーキングダムせとうちがホテル営業を開始しました。本館の客室は全室リニューアルされ、随所で見られるアート作品と客室窓から見える瀬戸内ならではの海と緑をゆったりと楽しむことができる部屋になっています。

現在は宿泊以外にも、ロビーにあるシャトレゼ売店でお菓子やケーキなどを買うことができるほか、下の階にあるCAFÉ nami note(カフェナミノオト)では、シャトレゼのケーキや軽食とドリンクが楽しめます。

今後は、広島ならではの柑橘を使用した焼き菓子の工場設置を優先的に進め、グランドオープンを目指しています。全国に多くあるシャトレゼショップの中でも、海と島とが見える景観の良いショップはガトーキングダムせとうちの魅力です。瀬戸内の自然と共生したスイーツのテーマパークを、地域住民も含めた多くの方に楽しんでもらえるよう計画中です。

今回取材に応じてくれた取締役総支配人の小川賢志さんは、「改装から今までに携わった地域の方々には地元を愛する人が多く本当によくしていただいたので、これからも地域の方々とともに歩み発展するホテルを目指します。」

進化を続けるシャトレゼガトーキングダムせとうちを実際に利用し、これからの想いをはせてみてはいかがでしょうか。

シャトレゼガトーキングダムせとうち

〒737-2502
広島県呉市安浦町三津口326番地48
電話: 0823-84-0262



Instagram



公式HP

HPから宿泊予約ができます。

Mental & Physical health

皆さん、こんにちは!

呉市安浦会館では、毎週金曜日の18時~21時まで、安浦まちづくりセンター内のアリーナや安浦中学校体育館で「Mental&Physical health(メンタルアンドフィジカルヘルス)」という活動をしています。スポーツを通して心と体を健康にしていくとともに、地域の人との繋がりを大切にし、みんなで支え合っていくことをコンセプトに2022(令和4)年4月から、呉市人権男女共同参画課の事業として始まりました。それまでは、安浦まちづくりセンター内の調理室でお菓子作り教室を開催していましたが、コロナ禍での感染対策の一環で飲食ができなくなったため内容を大きく変更しました。ソフトバレーボールをメインにバドミントン、ドッジボールなど、来た人たちがやりたいスポーツを毎週自由に楽しんでいます。とくにソフトバレーボールは人気で、大会にも意欲的に参加し人との繋がりと支え合いを強化しています。

参加者は、親子で参加することも多く、初心者から経験者、子どもから大人まで年齢制限はなく毎週約80名が集まります。

小さな集まりから大きくなった輪で、これからも怪我無く参加者全員で楽しく活動していきます。

主催

呉市人権男女共同参画課 安浦会館 0823-84-2579



連載「やすうら記憶遺産」とは？

安浦町の風物を描き残した画家・山本謙（1904-1994）の400枚にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取り組みです。

まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016（平成28）年No.28／9月号から連載を始め、今回で34回目のお話となります。



安浦駅前、町の玄関口にあった防火アーチ、「火の用心」の大きなアーチの存在を覚えている人も多いことでしょう。1966（昭和41）年、安浦町消防団が設置したものです。

日本の消防のルーツは江戸や大阪など、大火事の危機に何度も晒された近世都市の〈町火消〉という自治組織にあります。一方、地方では火事が起こると土地の若者らが駆けつける、〈駆付消防〉が主でした。明治に入ると、〈消防組〉という市町村単位の消防組織が次第に普及していきます。やがて昭和に入り、大震災の混乱の経験や空襲への備えなどから〈警防団〉が全国で組織され、江戸以来の地域住民による消防組織の姿は変容していきます。戦争に備えた防空、灯火管制、避難、炊き出しなどに組み込まれていったのです。

戦後になり、当時の警視庁消防部は、アメリカの消防・火災予防に関する調査を行いました。アメリカ型の消防理念を取り入れ、1946（昭和21）年の秋には戦後初の火災予防週間がスタートします。そして1947（昭和22）年、消防団令の交付により、全国の警防団は廃止され、以後、消防団が市町村に設置されました。安浦町においても、同年組織されました。

近代消防は火災の予防に力点を置き、そのため先述の火災予防週間などでのイベント、防火ポスターなど、市民向けの活動を多彩に広げました。安浦町にあった防火アーチも防火意識を高める消防団活動の一環だったわけですが、消防の歴史を振り返りながら見ると、安浦の消防に尽力した多くの人たちの熱意、戦後の消防理念を象徴する看板だったことがわかります。

*近代消防へ至る歴史を知る上で貴重な資料として、1887（明治20）年から1967（昭和42）年までの安浦町（内海町）での消防組織・活動の記録「内海町消防組沿革史」（金田家文書）がある。

やすうら再発見

散策のすすめ ◆ 稚児公園 ～こころ安らぐ眺望・自然とのふれあい～

稚児公園は安浦駅からシャトレーゼガトーキングダムせとうち（旧グリーンピアせとうち）に行く途中の、水尻地区・三津口湾が一望できる半島の丘に1988（昭和63）年に整備されました。

この半島一帯は、1977（昭和52）年の山火事によりクロマツの美林が焼失したために、生活環境保全事業として海岸の岩礁にある稚児明神への参詣歩道がないため稚児公園と結びつけ、森林公園として整備されました。

桜、藤、斜面一帯に咲くツツジと季節のうつろいととも草花を楽しむことができます。また、カキ筏が浮かぶ三津口湾を一望できる眺望は、すばらしいものがあります。夕暮れの時刻に呉線（瀬田線）を走る電車を見ていると、電車の灯りとガタゴトガタゴトと列車の走行音が聞こえてきてまるで銀河鉄道の列車のように空のかなたへ飛んでいくような錯覚を感じます。

西日本豪雨災害以前は、干潮時には三津口湾一帯がアマモでおおい尽くされていましたが、現在はあまり見ることはできません。こんな所にも災害の影響が残っています。

半島の先の突き出た岩礁には、神功皇后が新羅に向かわれる時にここに寄港されたという伝説があり、皇后を祀る祠があります。一説には、むかし村里のおかあさんが、乳がでないことを悲しみ、明神岩の上で祈ったところ、ついに乳が出たといわれ、稚児の明神というようになったそうです。陸路の参詣歩道は木々が生茂り行くのは困難でした。三津口湾の眺望、季節折々の草花、野鳥の観察など自然とふれあってみてはいかがでしょうか。



音楽の楽しさを届けたい

安浦出身のピアニスト・橋塚雅史さん

安浦小学校に隣接するスタジオで、安浦出身のピアニスト・橋塚雅史さんは多様な世代にピアノを教えています。2022（令和4）年の春から始まったピアノ教室には現在、幼稚園児から70代の方まで幅広い世代が通っています。初めての方、経験者問わず、音楽の楽しさを伝えたいとの思いから始めたこの教室のレッスンは毎週木曜日。橋塚さんは「pianoアートon雅」というクラス名でピアノを教えています。

撮影：野田尚之

安浦に生まれた橋塚さんは、幼少期に安浦のピアノ教室に通い始めました。安浦中学校に在学中に音楽の先生の勧めもあり、西広島の見真学園広島音楽高等学校に進学します。その後は東京の国立音楽大学に進学し、在学中に「ピアノで生きていきたい。」と決意します。アカデミックな音楽をより親しみやすく、多くの人に届けるため、橋塚さんは街の中、小規模でユニークな演奏場所を模索し東京で演奏活動を続けてきました。拠点を安浦に移したのは2019（平成31）年の4月、生まれ育った故郷・安浦で今こそ自分らしい音楽を地域に還元したい、楽しんでもらいたいとの思いがあったといいます。

「安浦中学校在学中、合唱の伴奏で岡村孝子さんの〈夢をあきらめないで〉をピアノ演奏したんです。ピアノ、そして音楽の力でみんなが励まされ一つになれた、その時の気持ちが今の僕の音楽への姿勢につながっています。」と橋塚さんは話していました。現在、橋塚さんはピアノ教室のほか、自主企画コンサート、出張レッスン、オリジナル曲の作曲、障害を持つ子どもたちとの音楽交流など多彩な活動を行っています。「安浦はほっとするところ。自分を育ててくれた大切な場所。ここから様々な人に音楽の楽しさを届けたい。」と橋塚さんは話していました。

